

平成 30 年度第 3 回古賀市スポーツ推進審議会【地域部会】 会議録
(要約筆記)

(座長)

・前回確認

- ① 総合型地域スポーツクラブについて古賀市の独自スタイルであれば良く、国が求めているものは難しい。
- ② 人材バンクについては、各所複数あるが、うまく機能していない。指導者については社会問題化しているパワハラ、セクハラも含め意識変革が必要である。

(座長)

- ・地域部会で話し合う「地域スポーツの充実」「スポーツを通じた地域活性化」について 10 年後の姿として語り合う中からヒントがでる。
- ・2020 年オリンピック・パラリンピックを一つのチャンスと捉え、踏み台にして地域の活性を考える。それぞれ意見を出して欲しい。

(委員)

- ・地域では小さな塊だが、いろんなことをやっていて、お金を集めてやっているところもある。スポーツ推進委員は要望があれば地域に出向いている。

(事務局)

- ・花見校区のマラソン大会は、スポーツを通じた地域活性化になっていると思う。

(座長)

- ・花見校区は子ども会育成会がやっているがコミュニティ構成メンバーなので地域で話が出ているし学校にも話はくる。
- ・活性化は地域によって方向性が違う。高齢化率や就業率などの違いがある地域が同じようにしても無理がある。

(コーディネーター)

- ・スポーツ推進委員は地域に分れているのか。スポーツ推進委員全体で行うスポーツの状況とスポーツ推進委員の地区構成について聞きたい。

(事務局)

- ・校区、行政区均等ではなく小学校区別にすると委員がいない地域もある。

(コーディネーター)

- ・アンケート結果で認知度が低い「健康スポーツの日」におけるスポーツ推進委員の関りについて聞きたい。

(委員)

- ・スポーツ推進委員とも連携し、体育協会が行っている。10,000 人集めたいが、いろいろやっても 1,000 人程度しか集まらない。

(コーディネーター)

- ・市としては一大イベントだと思うが、地域が巻き込まれる組織体制になっているのか聞きたい。

(委員)

- ・地域を巻き込む体制にはなっていない。「食」とコラボして開催するよう体制づくりをしたいと思っているが現実には難しい。

(委員)

- ・3 中学校域で同じ日に開催すると地域から参加しやすい。

(委員)

- ・一時期は各小学校会場で開催したが人は集まらなかった。地域はそれぞれでスポーツ行事をもっているため役員の負担感が多くなる。
- ・地域スポーツ実施を考えた場合、古賀市はやっていると思う。

(コーディネーター)

- ・地域を狭くすれば支える人もいる。

(委員)

・各地域に人材がいて、その人が何かをやる、そんな人を集めていきたい。今後は、体育協会と地域を繋いで開催したい。

(コーディネーター)

・ウォークラリーや個人のヨガなどを仕掛けて地域づくりに持っていく方法もある。
・総合型地域スポーツクラブの仕掛けにウォークはキーにできる。

(事務局)

・平成 28 年度からウォーキングを校区で行うように掛けているが行事としてコミュニティが動き出したのは 1 校区のみである。地域はいろいろスポーツ行事を行っているので、新たな行事を積極的に取り組める状況ではない。

(コーディネーター)

・そのウォークにスポーツ推進委員が関われば地域への関わりが生まれる。

(事務局)

・ウォーキング推進に係る市民を育成し、地域につなぐ仕掛をしているため、スポーツ推進委員を積極的にウォーキングに出す取組になっていない。今後、検討したい。

(コーディネーター)

・スポーツ推進委員活動の年間計画はあるのか。

(委員)

・年間通して「こがっ子元気アップチャレンジ」をやっている。
・出前講座を今年は実施していないが、地域から依頼があれば出向いて軽スポーツなどの指導を行っている。また、小学校の依頼を受けて特別支援学級でスポーツの手伝いを行っている。

(座長)

・スポーツ推進委員は小学校依頼で体力テスト測定もしている。

(事務局)

・古賀西小学校で数年前にあった「土曜授業体力づくりの日」は、地域やスポーツ推進委員を巻き込み大変良かった。

(コーディネーター)

・教育委員会や校長会への関わりを教えて欲しい。

(事務局)

・子どもの体力向上事業「こがっ子元気アップチャレンジ」に対し、教育長が社会教育からアプローチする旨の説明があった。今は、教頭会で事業説明を行っている。

(座長)

・土曜授業の内容が体力アップメインだった。今はわからないが土曜授業の中にスポーツの日があった。

(委員)

・地域という視点で見た時、既存のものをどう動かすかを考えてみた。
・新規事業を考えがちだが既存事業をどうしたらいいのかを考える。また、スポーツをするきっかけと健康づくりはつながっているので健康に関わる行政担当と一緒に考えると良い。高齢者率も上がってきているので地域は受け入れやすいと思う。

(委員)

・10 年後の地域スポーツについて、支える環境の中で、「ひと」「こと」「もの」が見えてくる。
・「ひと」であれば推進員の 10 年後、体育協会、生涯学習推進課や学校の状況から考える。
・今、小学校はすごい勢いで支援学級が増えてきている。特別な支援が必要な人が地域にどのくらい増えるのかなど、10 年後の地域の「ひと」の部分でどんなことが起こるか考える。
・「もの」であれば、小中校の施設を新しい団体や組織が使う余地は難しいのであれば、公民館や行政施設で込み合っていない時間帯、稼働率が低い時間帯があるのではないかを調べ、使えるのに使っていない理由と使える工夫を考え

てみる。

- ・「こと」であれば、スポーツだけでは人は集まってこない。食とかコラボレーションして今やっている取組でこんな姿にできないかなど 10 年後の姿を考える。
- ・「ひと」「もの」「こと」の問題を解決していき、必要なものは何かを考える。

(委員)

- ・体育協会 10 年計画を 3 年前に作り、中期に入り、検証している。
- ・地域からも体育協会の理事を出してもらい同じ土俵で語り合うと、その中から地域課題が出てスポーツの士気が高まる。

(委員)

- ・スポーツで地域と繋がることを大きなテーマで体育協会が考えている。

(座長)

- ・それが達成すれば地域スポーツ活性につながっていくと思う。

(委員)

- ・スポーツ推進委員の 10 年後はないのか。

(委員)

- ・教育委員会が降ろしてくることに対応しているため、数年後の活動を予測するのは難しい。

(委員)

- ・体育協会は 10 年後を考えているし、推進委員はいろんなところの活躍で満足感・達成感がある。組織は満足できて活動しているが、古賀市として 10 年後の地域スポーツの姿についての考えを聞きたい。

(事務局)

- ・コミュニティ執行部の中にスポーツ推進委員が入り、スポーツに関する意見やコーディネートをすることで地域スポーツがさらに活性していくと思う。コミュニティ活動に関わる地域ボランティアは立派なので、それを活用できる体制づくりを行いたい。

(委員)

- ・スポーツ推進委員と体育協会とコミュニティの連携の音頭をとるところに体育協会がいると思う。

(事務局)

- ・校区のモデル化。古賀西校区はすでにモデルにふさわしい、あと一カ所検討できるといい。
- ・スポーツ推進委員は地域組織に入るのに対しハードルはあるか。

(委員)

- ・ハードルはない。

(委員)

- ・50 数年続いている 11 月の駅伝大会に参加の青柳区は、一ヵ月前から小学生も公民館に集まり中学生や成人と一緒に練習をしている。その時、分館主事などが炊き出しをしている。素晴らしいことであり駅伝は地域づくりになっている。

(事務局)

- ・駅伝は 10 行政区程度出ている。

(委員)

- ・国道 3 号を境にまち部は走らないし駅伝を知らない。松林を走ろうとか、いろいろな場所で走ろう会があったらよい。海岸や松原を走る地域で西校区と花見校区と一緒にやればよいと思う。

(座長)

- ・「松原ネット花見」がボランティアで花見松原の下刈りや清掃をしで支えている。

(委員)

・古賀市リーダー塾はすごい取組だった。この方々が輪になってコーディネーターになると地域スポーツのモデルになると思う。これが総合型地域スポーツクラブと言ってもよいと思うし、この研修に参加した人の中に、次の10年の人材がいるのではないかな。

(会長)

・あれから15年経っているから難しいと思う。人材育成にはいいモデル事業だがスポーツ推進に直接につながるの厳しいと思う。
・山と海。三号線を境に古賀市の特色を活かして考えたらよいのではないかなと思う。

(事務局)

・山を考えた時、船原古墳がある。遺物の馬具は国宝級と言われている。馬をテーマにスポーツはできないか、地域は繋がらないか。

(委員)

・国体時に出来た県立馬術競技場があり運営は県馬術連盟がしている。玄界高校に馬術部をつくったのも施設ができたことが基になる。

(委員)

・スポーツ推進委員と体育協会とリーダー塾の卒業生が一緒になって、コーディネートしながら組織ができるといいと思う。

(座長)

・公民館の活用状況はどうなんだろう。

(事務局)

・自治区の管理下なので把握できていない。

(委員)

・打ち上げ花火でなく、持続できるモデルを考える。

(座長)

・仮に、打ち上げ花火なら、それをきっかけに継続できるものをいれる。

(委員)

・きっかけはいろんなことをやって良いと思うが、その時しかできないものばかりだと、その時にしかできないものだけになる。

(委員)

・何年も前に「古賀市リーダー塾」があり、地域のために、こういうことがあると考え活動している人がいる。それぞれ実践している人がキーパーソンになる。スポーツ推進委員と体育協会がいて、地域でスポーツ行事をしている人達が連携し、コーディネートして組織ができていけばよいのではないかなと思う。
・いきなり古賀市全体では難しいので、例えば、山モデルとか持続可能なモデルが出来るといいと思う。

(委員)

・他市町で開発した障がい者スポーツ種目があるように、古賀で発明の何かをつくって「古賀はこれやる」と言うのがあって、それを「健康スポーツの日」に体験し、その後地域で1年間通して練習するスタイルになると良い。

(委員)

・馬術場やスケボーパーク、どこにでもないものを活かすのも一つだし、企業スポーツで地域を活かすものや、地域を支えてくれる企業とかはないのか。

(委員)

・古賀市はスポーツが盛んである。その基盤は企業スポーツだったニビシ醤油、西部電機、凸版印刷の選手が大会選手として古賀代表で出ている。企業に支えられたが浮き沈みがあるので今はあまりない。体育協会が地域と繋がり、企業に協賛してもらえばできることがある。

(座長)

・ゴルフ場もある。

(委員)

・一つをやって、そこにワッと人が集まる発想もあるが、ちょこちょこやって延べで数えて 10,000 人でもいい。集まった人が本当に楽しかったか！でよく、参加者の満足感ではかれば良いと思う。

(委員)

・同じ日に 10,000 人集まることに体育協会が地域につながっていく意味がある。

(委員)

・実業団的な人達に手伝ってもらうのも一つ。例えばアビスパ、ソフトバンクホークスなど大きすぎると思うが企業に手伝ってもらうことはできる。

(委員)

・古賀市のスポーツにホッケーをできないかと思う。

(委員)

・ホッケー型軽スポーツでユニホックがある。

(座長)

・古賀発祥の軽スポーツがあれば地域に展開できる。

(会長)

・作るにも地域から集まってきて皆で話し合う。その過程が地域づくりになる。

(委員)

・最初から地域づくりではなく、コーディネートしながら団体が地域のために何かできないかと動き始めるようになっていく街になれるかどうか課題だと思う。

・運営でき持続可能なモデルになれば、「ひと」であったり「場所」であったり「企業」であったり古賀市の 10 年後を話し「体育協会が地域に繋がる」と会長が言ってくれてる、その中に地域スポーツ活性のモデルができると思う。

(委員)

・福岡市は総合型地域スポーツクラブ発想にとらわれない福岡市独自の組織づくりの流れになっている。既存を活かしつつ地域スポーツに活かし、地域の在り方をよくしていく福岡市体育協会の関わり方に対する考えが方ある。

(委員)

・前回の部会では、最初に総合型地域スポーツクラブのワードが出いたのでマイナス発言ではなく、状況を話し、総合型地域スポーツクラブのいいところや課題を出した。

・マイナスではなく既存との連携が大事で地域とのコーディネーをしていくと、ゆるいくくりの中で総合型地域スポーツクラブができる。

(座長)

・地域とつながれば、かなりのことができる。

(座長)

・競技的な面と健康両面が二本柱になって、しっかりできていくことになる。

(委員)

・古賀市の障がい者集まりはないのか。県には障がいスポーツクラブがあるので、その下に市郡の組織的なものがあると、パラリンピックの部分で言うスポーツも拾えるのではないかと思います。

(座長)

・本日は、いろいろご意見を有難うございました。まとめるのに事務局は大変と思うがよろしく願います。もう少し、まとまりがある時は、事務局で日程調整をして欲しい。(候補日 10 月 4 日)